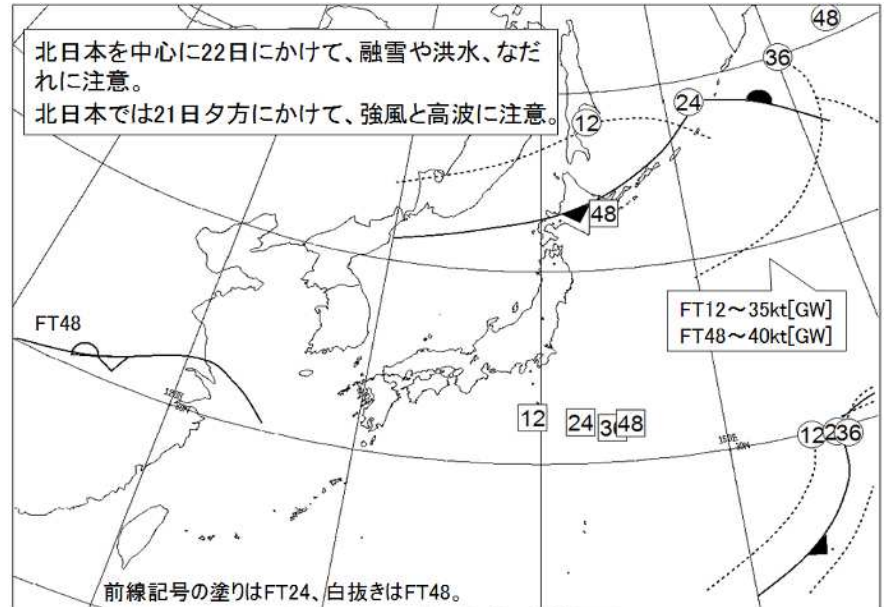


1. 実況上の着目点

- ① 西日本の500hPa5760～5820m付近には優勢なリッジがあって東進。東日本から南西諸島は広く高気圧に覆われている。
- ② 500hPa5400m付近のトラフがアムール川下流にあって、東南東に進んでいる。対応する低気圧がアムール川下流にあって東進。北日本では気圧の傾きがやや大きくなっており、風速15m/sを超えているところがある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①のリッジは22日にかけて日本付近を東進。地上から300hPaまでの背の高い高気圧が引き続き日本付近を覆う。北日本から西日本では850hPaの気温が22日かけて平年より10℃以上高くなり、特に21日には北日本で平年より最大で14℃高くなるところがある。東日本から南西諸島では21日から22日にかけて夏日となるところが多く、真夏日となるところもある。暑さに慣れない時期のため、熱中症などの健康管理に注意。また、積雪が多い北日本を中心に融雪や洪水、なだれに注意。
- ② 1項②のトラフは21日夜にはオホーツク海、22日には千島の東に進む。対応する低気圧は21日夜には前線を伴って千島近海に進み、最大風速は21日朝には35kt[GW]、22日夜には40kt[GW]に達する。北日本では21日夕方にかけて強風や高波に注意。また、低気圧からのびる前線が21日夜に北海道を通過する。前線近傍では大気の状態が不安定となるため、対流雲の発達に留意。
- ③ 南西諸島では21日から22日にかけて、1項①の高気圧の縁をまわる下層暖湿気(850hPa相当温位336K以上)が流入し、大気の状態が不安定となって対流雲が発達しやすい。落雷や突風、短時間強雨に注意。また、22日夜には、華南から東シナ海に前線が発生する。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場は最新GSMを基本とする。量予報や降水分布はMSMを基本とする。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

- ① 大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：北海道3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表予定なし。